



ぶら研 「すんくじら」

令和6年度 志和池小 校長室からぶらっと研修 16 11月5日 文責 田爪



脳の「神経可塑性」

脳の発達学によると、脳は使い方によって絶えず変化するそうです。これを、脳の「神経可塑性」といい、この神経可塑性は、脳が楽しく刺激されたときに極大化するそうです。

算数の問題をすらすら解く能力よりも、想像力や論理的に考える力の方が重要ということです。

「主体的な学び」が重視されています。「子どもたちがわかる」ことも大切ですが、受動的な学習で理解できたとしても、その力は未来に生かされるものとはなりません。

子どもたちが自分の考えを交流し合いながら問題解決する過程、その時間をより多く確保することの大切さを改めて考えさせられます。

45分間のほとんどを、子どもたちが前を向いて受ける授業から脱却し、子どもたちがアクティブにダイナミックに思考・活動する「子どもたちが主役の授業」へと向かいましょう。

授業研究会では、「子どもたちが主体的に学ぶ姿」を共有し合い、次の実践につなげる貴重な機会になると期待しましょう。

※ Yahoo!ニュース「なぜイギリスの小学生は『問題集』を解かないのか？ 知っておきたい“暗記式教育”のメリットとデメリット」を参考にしました。

担任の枠を超えて、機を捉えて、指導や励ましを

先週、〇〇先生が、5年生の児童の作文を、宮日新聞の『窓』に投稿する準備をされていました。理科の時間に、子どもが「火球を見た」と知らせてきたそうです。すると、「書いてみる？」と促したのだそうです。

その子は、家に帰ってお母さんといっしょに作文を書いて翌日もってきたので、それを「窓」に投稿してくださいました。

その子は、大きなチャンスを得たと思います。

担任だけでは気付かないことも、枠を超えて、機を捉えて、指導や励ましを行うことで、子どもたちには、さまざまなチャンスが訪れるのでしょう。

ポジティブ行動支援

ポジティブな行動（言葉）が増えると、相対的に問題行動（言葉）は減少する

思考に気をつけなさい。それはいつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから。
行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい。それはいつか性格になるから。
性格に気をつけなさい。それはいつか運命になるから。

～マザー・テレサ～

学級でのふやしたいステキな言葉
「やさしい言葉」「ほめる・みとめる言葉」
「はげます言葉」「伝える言葉」
など、増やしたい言葉だけに着目して考えることが大事。
具体的に、ポジティブになれる「すてきな言葉」を子どもたちに考えさせてみてはどうでしょう。